

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の有価証券は個別法による償却原価法(定額法)を採用しています。
 その他有価証券は決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

定額法により減価償却を実施し、直接法で表示しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税については、税込み方式によっています。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。 (単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	19,400,000,000	3,500,000,000	△ 3,400,000,000	19,500,000,000
普通預金	87,500,000	2,300,003,216	△ 2,387,503,216	0
小計	19,487,500,000	5,800,003,216	△ 5,787,503,216	19,500,000,000
特定資産				
助成基金				
投資有価証券	2,049,420,000	122,389,214	△ 120,479,214	2,051,330,000
小計	2,049,420,000	122,389,214	△ 120,479,214	2,051,330,000
合計	21,536,920,000	5,922,392,430	△ 5,907,982,430	21,551,330,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。 (単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)
基本財産			
投資有価証券	19,500,000,000	(19,500,000,000)	(0)
普通預金	0	(0)	(0)
小計	19,500,000,000	(19,500,000,000)	(0)
特定資産			
助成基金			
投資有価証券	2,051,330,000	(0)	(2,051,330,000)
小計	2,051,330,000	(0)	(2,051,330,000)
合計	21,551,330,000	(19,500,000,000)	(2,051,330,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりです。 (単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	9,071,102	9,071,102	0
什器備品	5,077,491	4,808,641	268,850
合計	14,148,593	13,879,743	268,850

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりです。 (単位:円)

科 目	帳簿価額	時価	評価損益
基本財産			
社債:三井住友銀行劣後債3件	19,500,000,000	20,123,693,857	〔 + 633,734,257 △ 10,040,400
住友信託銀行劣後債4件			
住友生命劣後債権流動化特定目的会社債			
信金中金債権流動化株式会社債			
みずほ銀行劣後債3件			
大和証券SMBCマルチコーラブル債			
みずほコーポレート銀行劣後債			
UFJファイナンス劣後債リパッケージユーロ円債			
三菱UFJ信託銀行劣後債			
パークレイズ・バンクユーロ円債			
野村ホールディングス社債			
関西アーバン銀行無担保永久劣後社債			
SMBCユーロ建劣後債リパッケージユーロ円債			
特定資産・その他固定資産			
社債:東京急行電鉄無担保社債			
GMACリパッケージユーロ円債			
JPモルガン・チェース円貨劣後債			
SMBCユーロ建劣後債リパッケージユーロ円債			
合 計	21,493,281,620	23,006,969,600	〔 +1,523,728,380 △ 10,040,400

(注1)時価は取扱証券会社から提供された時価情報で算定しています。

(注2)帳簿価額は、その他固定資産に計上したオーバーパー購入部分の償却原価を含んでいます。

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、以下のとおりです。 (単位:円)

内 訳	金 額
経常収益への振替額	
基本財産運用益	488,467,006
合 計	488,467,006

7. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引

(1)資金の範囲

資金の範囲は、現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等物(容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期投資)です。

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている金額との関係は以下のとおりです。

(単位:円)

	当期末	前期末
現金預金	237,483,642	229,684,880
現金及び現金同等物	237,483,642	229,684,880

なお、基本財産普通預金及び特定資産普通預金を保有していますが、原則として処分不可能なものであるため、資金の範囲には含めておりません。

(2)重要な非資金取引

- ①基本財産として、12,500,000円の寄附金を受領しました(基本財産普通預金口座への被振込)。
- ②期中に取得したその他固定資産投資有価証券100,000,000円を特定資産に振替えました。
- ③基本財産投資有価証券2,143,622,905円、特定資産投資有価証券19,959,214円、その他固定資産投資有価証券36,417,881円、合計2,200,000,000円の償還金を基本財産普通預金口座で受取りました。
- ④基本財産投資有価証券を特定資産に19,959,214円、その他固定資産に36,417,881円振替えました(基本財産普通預金で受取った特定資産投資有価証券及びその他固定資産投資有価証券の償還金相当額)。
- ⑤基本財産普通預金及び基本財産有価証券を原資として、基本財産投資有価証券2,300,000,000円を取得しました。
- ⑥基本財産投資有価証券1,200,000,000円の償還金を原資として新たに1,200,000,000円の基本財産投資有価証券を取得しました。